

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『「児童手当」について』

町田市立町田第二中学校3学年 白澤 佑樹

私は四人兄弟だ。そのため、「児童手当があるから助かる」という話を親がしているのを耳にしたことがある。そして「児童手当」について、「児童手当」によって家庭に子供が三人以上いる場合には、国から子育てのためのお金を少し多くもらえるということを知った。これはとてもありがたい制度だと思った。一方で、私は、ただお金を支給してもらえるとということしか知らなかったため、どうしてこのお金がもらえるのだろうかと疑問を持った。そこで、詳しく調べてみた。それにより、児童手当のお金は「子ども・子育て拠出金」という名称で税金からまかなわれていることを知った。そして「児童手当」について調べることを通して、私は二つのことを学んだ。

一つは、税金はしっかり役に立っているのだということ。これまで私にとって一番身近な税金は消費税であり、税金は払うことが多いイメージだった。そのため、税金は社会の役に立っているということは知っていたけれどあまり実感がなかった。だから、税金には少しマイナスなイメージを持っていた。でも「児童手当」について

調べ、税金は日本の現状に合わせて、必要な人に必要な分だけしっかり使われているのだと分かった。そして、税金は役に立っているということを実感することができた。

もう一つは、税金は必要に応じて使われ方が変わっていくということ。私は四人兄弟だけれど子育てのためお金が支給され始めたのは最近になってからだ。この「子ども・子育て拠出金」の支給は、日本の少子化が急速に進んでいるという現状を受けて作られたのだ。このように税金は少子高齢化に直面する日本の課題に合わせていろいろな使われ方をしている。私はこのことをすごいと感じた。しかし、一方で課題もあるのかもしれないと感じた。二ユースで「子ども・子育て拠出金」について取り上げられたときに、「もう少し早く支給してほしいかった」「これだけ支給されてもあまり変わらない」といった声があったのだ。この声を聞き税金は確かに必要の人に届いてもらっているが、必要な人に十分に届かないこともあるのかもしれないと思った。そして、その時々に応じて税金の使われ方ももっと変化していく必要があるかもしれないと思った。

税金の正しい使われ方について考えることは、私にはまだ難しい。でも、今の税金が具体的にどう使われているのか、それがどのような目的で使われているかということを知ることがとても大切だと思う。だから、税金について今後積極的に知っていききたいと思った。